

News Release

2019年4月25日
独立行政法人製品評価技術基盤機構
N I T E (ナ イ ト)
東 北 支 所

屋内の事故から子どもを守る ～環境と物選びでもっと安全に～ (東北版資料)

1. 事故の発生状況

2013年度から2017年度の5年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※1}では、0歳から6歳までの子どもが被害者となった屋内の事故は125件^{※2}ありました。これらの中には、子どもが製品事故の被害に巻き込まれただけでなく、子どもの行動が事故のきっかけになったものがあります。

東北地方6県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）では5年間に5件の事故が通知されています。

東北6県で発生した0歳から6歳までの子どもが被害者となった屋内の事故5件のうち、死亡事故が1件、重症事故が2件、軽傷事故が1件となっています。

表1 0歳から6歳までの子どもが被害者となった屋内の事故の県別の年度別事故発生件数

発生年度 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2013年度	0	1	1	0	0	0	2
2014年度	0	0	1	0	0	0	1
2015年度	0	1	0	0	0	0	1
2016年度	0	0	1	0	0	0	1
2017年度	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	2	3	0	0	0	5

表2 0歳から6歳までの子どもが被害者となった屋内の事故の県別の被害状況別事故発生件数

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
死亡	0	1	0	0	0	0	1
重傷	0	0	2	0	0	0	2
軽傷	0	1	0	0	0	0	1
拡大被害	0	0	0	0	0	0	0
製品破損	0	0	0	0	0	0	0
被害なし	0	0	1	0	0	0	1
合 計	0	2	3	0	0	0	5

表3 0歳から6歳までの子どもが被害者となった屋内の事故の県別の事故原因区分別発生件数

原因区分		発生県						合計
		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
製品に起因する事故	A:設計、製造又は表示等に問題があったもの	0	0	2	0	0	0	2
	B:製品及び使い方に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	C:経年劣化によるもの	0	0	0	0	0	0	0
	G3:製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	0	0	0	0	0	0	0
い事故 製品に起因しない	D:施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	E:誤使用や不注意によるもの	0	1	0	0	0	0	1
	F:その他製品に起因しないもの	0	1	0	0	0	0	1
G1、G2:原因不明のもの		0	0	1	0	0	0	1
H:調査中のもの		0	0	0	0	0	0	0
合 計		0	2	3	0	0	0	5

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

(※2) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。



2. 主な事故事例

○2015年8月8日（岩手県、女児、軽傷）

事故内容: 幼児がウォーターサーバーを触っていたところ、腹部に熱湯がかかって火傷を負った。

事故原因: 事故品に異常は認められず、子供に触れさせないために標準で同梱されていた操作部カバーを使用していなかったため、幼児から目を離した際に、幼児が事故品の温水コックの操作部に触って出湯し火傷を負ったものと推定される。

なお、取扱説明書には「子供の火傷防止のために必要に応じて操作部カバーを使用する」旨の記載があり、また、本体表示には、「熱湯注意。温水コックを押さえると熱湯が出るので火傷に注意する」旨、警告表記されている。

○2015年5月（宮城県、男児、重症）

事故内容: 浴室から脱衣所に出る際に転倒し、浴室用ドアの下枠レールに右足を打ち付け、負傷した。

事故原因: 男児が転倒した際にレール部に右足くるぶしを打ち付けて事故に至ったものと考えられるが、当該製品のレール部の状態を確認することができなかった。

○2013年5月（宮城県、男児、重症）

事故内容: 助産院で助産師が電気蓄熱式湯たんぽを使用中、当該製品が破れ、付近にいた新生児が火傷を負った。

事故原因: 当該製品の製造時において、PVCシートの圧着不良があったため、使用時に袋が破れて高温の内容物が流出し、火傷を負ったものと推定される。

○2013年5月28日（岩手県、男児、死亡）

事故内容: 建物を全焼する火災が発生し、1名が死亡した。

事故原因: 過去に男児がこんろの点火ボタンを押すことが何度かあった。

ガスこんろの右側こんろ上に置いていたフライパンの油が過熱されて出火し、火災に至ったものと推定される

3. 子どもが被害者となった屋内の事故の実験映像について

子どもが被害者となった屋内の事故の実験映像に関しまして、写真及びムービーをご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

以上

【編集人のつぶやき】

子供の事故は、0～2歳児の事故が半数以上をしめ、なかでも1歳児の事故が最も多いんですネ！！

つかまり立ちを始める1歳位の子供は、なんにでも興味を持ちます。大人が想像もしないような行動をとります。

目が離せません！！

小さな子供が事故を起こしてしまわぬよう、被害を受けることのないよう、安全な環境を整え、守ってあげるのは大人の大切な役目なんです(^ω^)

(本件に関する問い合わせ先)

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

独立行政法人製品評価技術基盤機構(略称:NITE)
東北支所 業務課

担当: 菊地(きくち)、齋藤(さいとう)、福井(ふくい)

電話: 022-256-6423

E-mail: jiko-tohoku@nite.go.jp

NITE
ホームページ



YouTube
公式チャンネル



Twitter
公式アカウント

